

伝統藝×朗読パンダ

「効果は十五徳！ 能の世界を知り、舞台上で映える美しい姿勢を体得する WS」

○実は難しい演劇的静止

舞台上において台詞を言っているときや大きな所作のあるときはもちろん、むしろ台詞のないときの立ち居振る舞いにこそ技量の差が現れます。技量のある役者は台詞の邪魔をせず、堂々と静止ができます。が、技量のない人は、

- 1) 無駄に動く
- 2) 軸がブレてフラつく
- 3) 止まっていることで間が持たないと考え、無用な裏芝居をする

という傾向があります。もちろん、台詞を言っている人以外がリアクションをとったりする裏芝居が求められる場面もあります。が、明らかに必要のない裏芝居をする人がいます。理由は簡単で自分の静止する姿に自信がないのです。だから何かしなくてはただの棒立ちに見えてしまうのではないかと考え余計な動きをしてしまいます。しかしそちらの方が舞台全体を見たときに画を汚していることが少なくありません。

○宝生流シテ方能楽師が技を伝授

本 WS では宝生流シテ方能楽師・今井基が能の基礎から美しい立ち方・座り方を実践的に伝授します。能においては主役であってもじっと静止していなければならない時間があり、そのときいかに自然に舞台の一部となるよう美しく立っていただけるか、座って耐えられるかが非常に重要な技術として求められます。どこに自分の位置を取るべきか？ 視線は？そして止まっているとき何を考えているのか？美しく見せるために必要な「すべきこと」を徹底解説&実践で体得して頂きます。(2回目 17時～の内容になります)

○能のいいとこ全部取り

今回は初回記念として能の世界を全体的に知っていただくべく、謡(台詞)の解説&実践も行います。面(おもて)をつけた状態での発声、息遣い、声のベクトルへの意識など技術的な要素はもちろん、謡の内容を知ることによって脚本の読解能力に新たな視点を手に入れようという意図です。何かと叫びがちな小劇場の悪習を脱し、静かに通る声を出す身体を獲得するにはどのようにしたら良いのか。実際に面を使った状態での発声を体験して頂き、声に磨きをかけていきます。(1回目 14時～の内容になります)

○能の「要素」は現代劇や社会生活にも生きる

本WSは能楽師要請を目的としたものではありません。しかし前述の通り、美しい立ち方、止まり方は現代演劇においても必須ですし、空間把握能力の向上という観点から考えると能ほど有効な演劇形式はありません。ですから本WSは演劇人だけでなく、日常生活を送る上で身体感覚の涵養という点からも有用です。自分の身体の使い方に意識的になることは社会をより生きやすいものにするためにも大切です。例えば、世の中いかに右利き用に出ているかを多くの方は意識していません。それがわかるのは左利きの人と右手をケガしたときです。しかし芝居はケガをすることなく身体の使い方を意識することで今まで気付かなかったことに気付けるツールなのです。本WSを通して多くの方が身体の使い方に新たな意識を持ち、世の中を見る目がほんの少し、でも確実に変わってくることを期待してやみません。

○日本演劇の原点＝能の世界を知ることは「日本」を知ること

また、日本演劇史において能はその原点ともいべき形式です。より正確に申し上げれば室町時代に日本の文化形式の基本的方向性がほぼ完成されるわけですが、演劇においては能であったということです。ですから能に学ぶことは日本文化の原点に学ぶことと言っても過言ではないでしょう。朗読パンダ番外公演で上演された「SSR 空に乱るゝ」は現代会話劇ですが能から多大な影響を受けた1作であることは間違いありませんが、能の影響力は演劇作品だけにとどまるものではないのです。日本において最も重要視される「供養」という感覚はいかなるものか。いかにして発生し、浸透していったか。こうした観点を持つことにより、芝居の台詞はもとより日々の生活の習慣にも「日本」が染み付いていることに気付けるはずです。そしてそれに気づいたとき、私たちの身体はその束縛から少しだけ自由になれる可能性があるのです。制約の多い能という藝を通じて身体を自由にする難しさ、面白さ、大切さを体感して下さい。

○講師紹介

今井基（いまい もと）

宝生流シテ方能楽師。昭和63年 東京都出身。第十九代宗家 宝生英照、第二十代宗家 宝生和英、祖父 今井泰男（重要無形文化財）、及び父 今井泰行（重要無形文化財）に師事。8歳にて初舞台『鞍馬天狗』子方を踏む。平成23年 二十代宗家内弟子入門、平成30年 内

弟子生活を終え、独立

平成 24 年 能『経政』初シテ [2012 年]

平成 29 年 能『翁』千歳 [2017 年]

公益社団法人 能楽協会 会員、公益社団法人 宝生会 会員、株式会社 今井舞台 取締役

町田 NHK カルチャーセンター 講師、大人の休日倶楽部 趣味の会 講師

・朗読パンダ担当者

大塩竜也（朗読パンダ共同代表、座付き作者）

○場所

本 WS は講師が使用する本物の能の稽古場にて行われます。実際に老松の描かれた鏡板の前で演じることで、独特の緊張感と藝に向き合う姿勢を体感して頂きたいと思います。お申し込み頂いた方に練馬区内（光が丘）にある稽古場への具体的なご案内をお送り致します。

○日時 2019 年 4 月 27 日（土）

1 回目 14:00～16:00 『謡』（2 時間） 発声・台詞に磨きをかけたい方はこちら

休憩（1 時間）

2 回目 17:00～19:00 『型』（2 時間） 美しい姿勢や動きを学びたい方はこちら

*遅刻等での途中参加も可能ですが、料金は変わりません。1 回目、2 回目で内容が異なります。両方の参加も可能です。

○参加費

各回 3000 円（稽古場代、道具使用代等含む） / 両方 5000 円

両方参加の場合は、2 回目が 1500 円になり、計 5000 円になります。各回とも内容は異なります。

2 回目終了後、希望者の方は講師と参加者による懇親会を予定しております。申し込みは当日のみ受け付けております。参加費は平均して 2000 円程度です。

○持ち物

本 WS は能の稽古場を使用して行われます。足袋をご持参下さい。お持ちでない方には 1 日 500 円でレンタル致します。レンタルを希望される方はお申し込みの際に「足袋レンタル希望」とご記入下さい。
服装は動きやすいものであれば特に指定はありません。
扇子や面は主催者側でご用意致します。

○募集人数・参加資格

各回 15 名まで。声優・俳優を志す方だけでなく演技力の向上に意欲のある方、美しい立ち居振る舞いや発声を身につけたい方であれば年齢・性別・経験は問いません。初心者の方も大歓迎です。

○お申込み・お問合せ

下記アドレスまで必要事項を記載の上で、メールで受け付けております。定員になり次第受付終了しますが、WS 前日までお申込み可能です。roudokupannya@gmail.com メールに以下の必要事項をご記載ください。

- (1) 参加希望日時と希望回 (1 回 or 2 回目 or 両方)
- (2) お名前 (ふりがな)
- (3) 性別、年齢
- (4) 足袋レンタルの要／不要
- (5) 携帯番号 ※お申し込み、お問い合わせいただいた方には上記メールアドレスから、

詳細をご連絡致します。なお、お預かりした個人情報は朗読パンダが厳重に保管し、本 WS

に 関する諸連絡以外に使用することはありません。